

ABE KOGYO

施工説明書

施工業者様用

プレステージ

PRESTIGE 開戸ユニット

片開ドア

このたびは、ABE KOGYO製品をご利用いただき、誠にありがとうございます。

!

施工にあたってのご注意

- この施工説明書をよくお読みになり、正しく取付けてください。誤った取付けをしますと、人身事故や家財の損害が発生する恐れがあります。
- 商品に破損や異常がないか、付属品の不足はないかをご確認ください。万一商品に破損や異常があった場合、また付属品の不備があった場合は、販売店または阿部興業株式会社までご連絡ください。
- 室内専用です。屋外や浴室に使用しないでください。
使用しますと腐れ、割れ、ねじれ、反り等の不具合が発生します。
- ビス穴加工以外の扉・部材等にビスを取付ける時は、リード穴をあけてビスを取付けてください。割れ等の原因となりビスの効きが減少し、不具合の原因となります。
- 照明灯等の熱により、表面化粧が冒される場合があるので、熱源は1 m以上離して作業してください。
- 施工完了まで、水平になるように保管してください。水平でないと反り等の原因となります。

扉梱包 (扉本体)		枠梱包	
1		部材名	
	①	上枠 (1)	
	②	縦枠 戸先側 (1)	 ※ケーシングタイプは形状が異なります。
	③	縦枠 丁番側 (1)	 ※ケーシングタイプは形状が異なります。
	④	戸当り (縦用:2) (上用:1)	
	⑤	ケーシング (縦用:4) (上用:2) ※ケーシングタイプのみ	 ※縦枠、上枠ともに片側留め加工付となります。 尚、上枠は現場にてもう片方も留め加工にカットしてください。

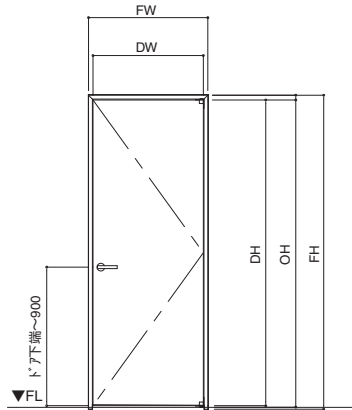
部品梱包	枠組立てビス	躯体取付けビス	戸当り取付けビス
片開	8	10	13

※上記数量は、規格品の場合の本数です。

納まり図

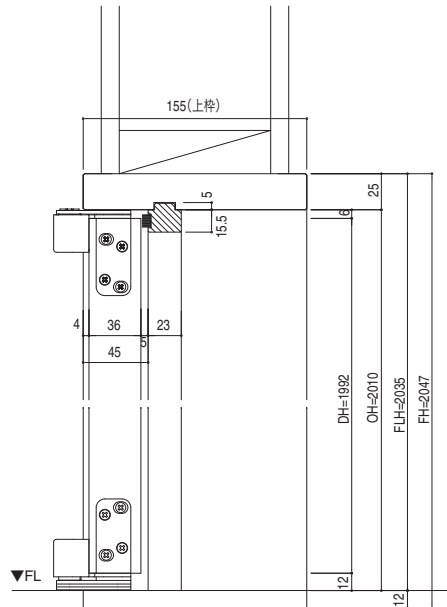
<姿図>

片開

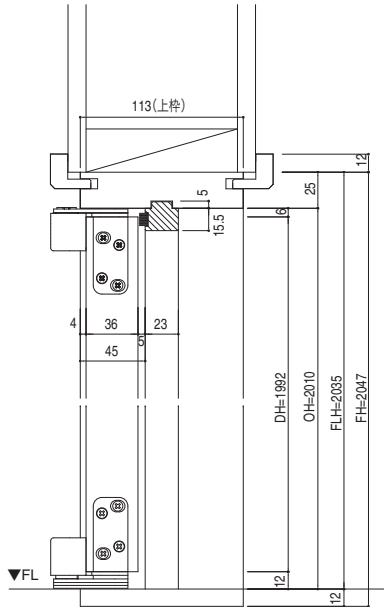


<縦断面図>

●固定枠

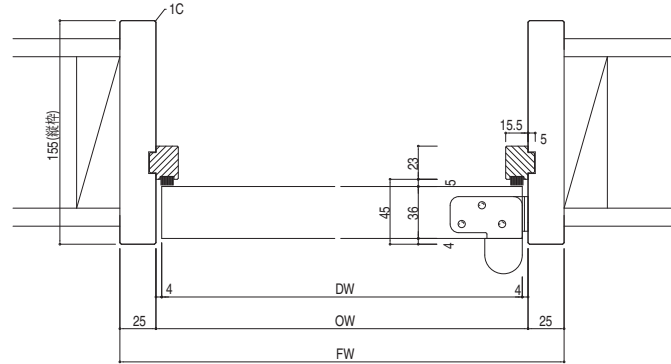


●ケーシング枠

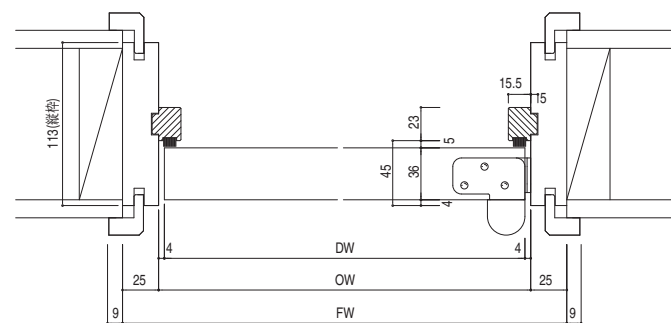


<横断面図>

●固定枠



●ケーシング枠

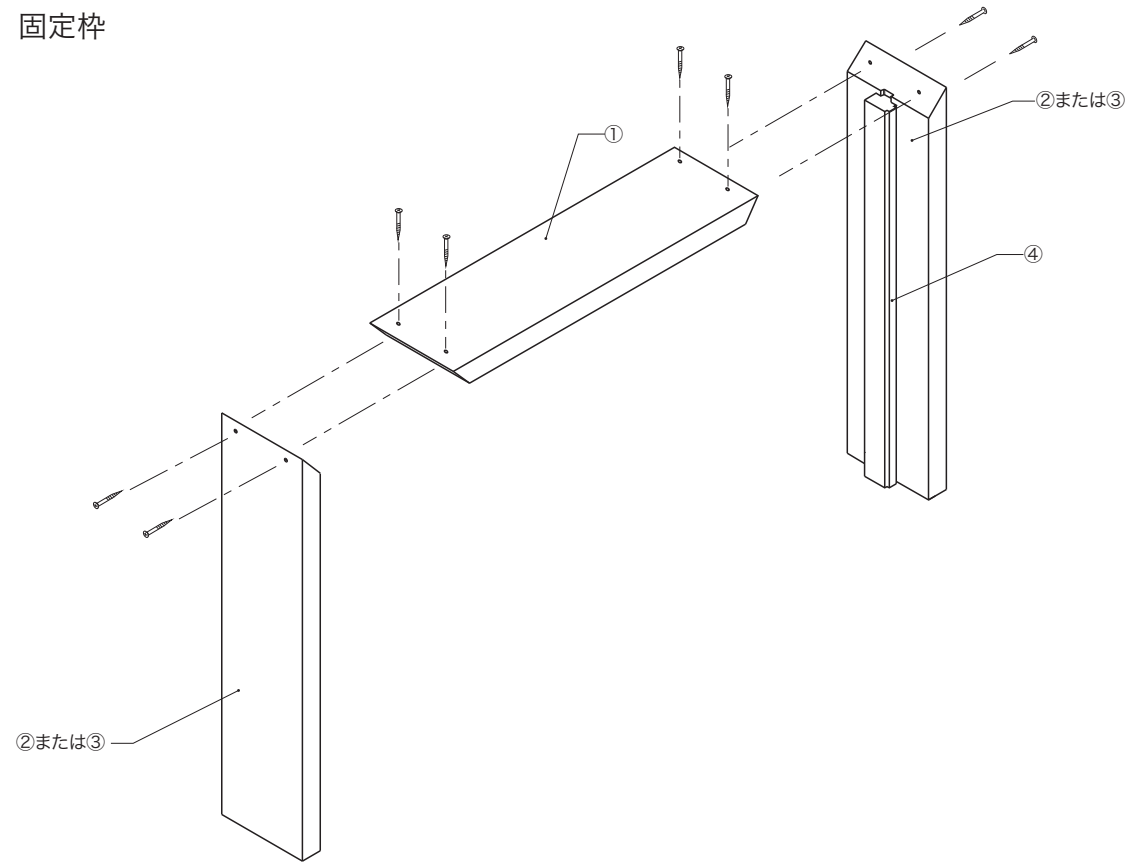


サイズ

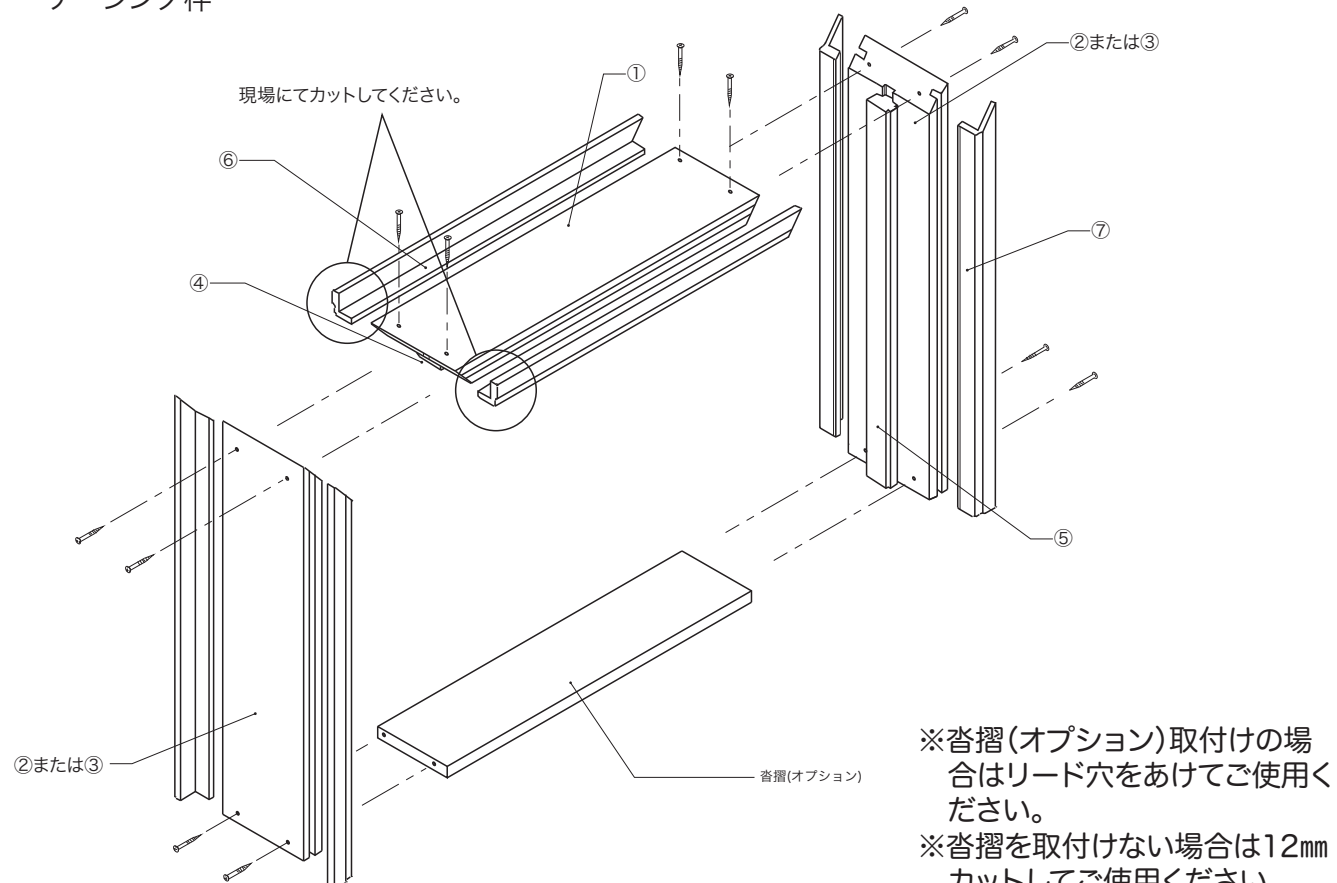
枠	タイプ	枠見込 (mm)	スタンダード		カスタム	
			FW (mm)	FH (mm)	FW (mm)	FH (mm)
三方枠	片開	(固定枠) 155・175 (ケーシング枠) 113・150	735	2047	650〜875	1875〜2075
			755			
			775			
			850			

枠の組立て<片開>

固定枠



ケーシング枠



※沓摺(オプション)取付けの場合はリード穴をあけてご使用ください。
※沓摺を取付けない場合は12mmカットしてご使用ください。

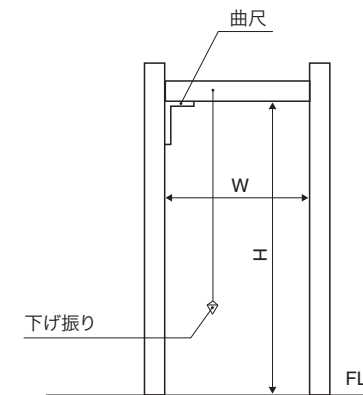
取付け順

1 開口部の確認

- ドア枠取付け前に、必ず柱・床・マグサの水平・垂直が出ているか確認してください。
- 枠の見込は固定枠(155mm・175mm)とケーシング枠(113mm・150mm)とケーシングの組合せにより幅広く対応できます。

※ケーシングをカットする場合は一律に丸ノコ等で塗装面からカットしてください。カット後は補修セット等でタッチアップしてください。

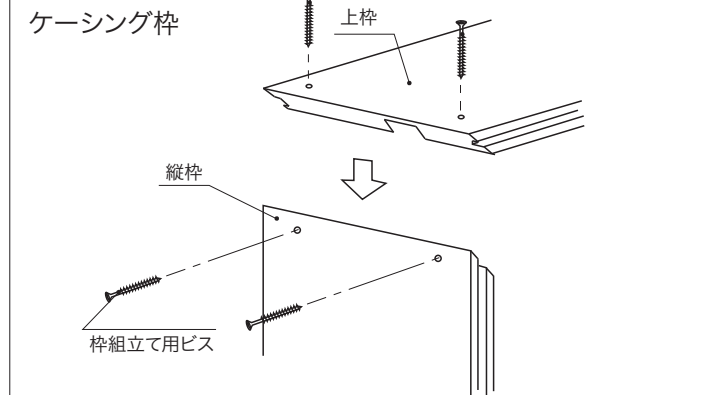
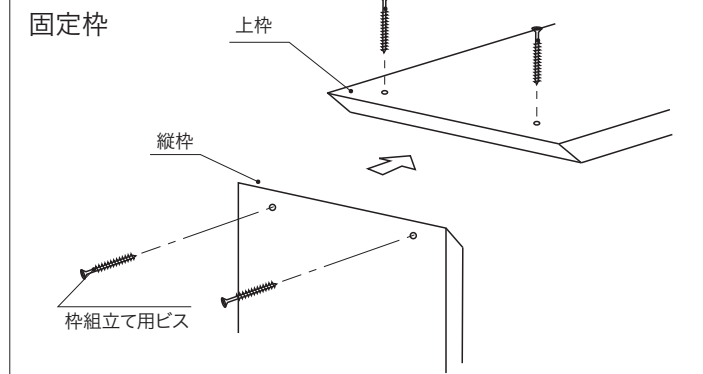
※開口部の水平・垂直を正しく出してください。



2 枠の組立て

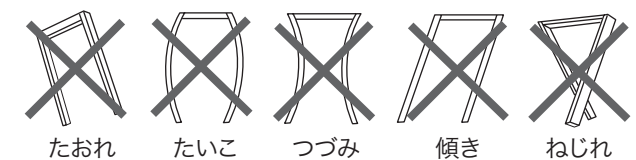
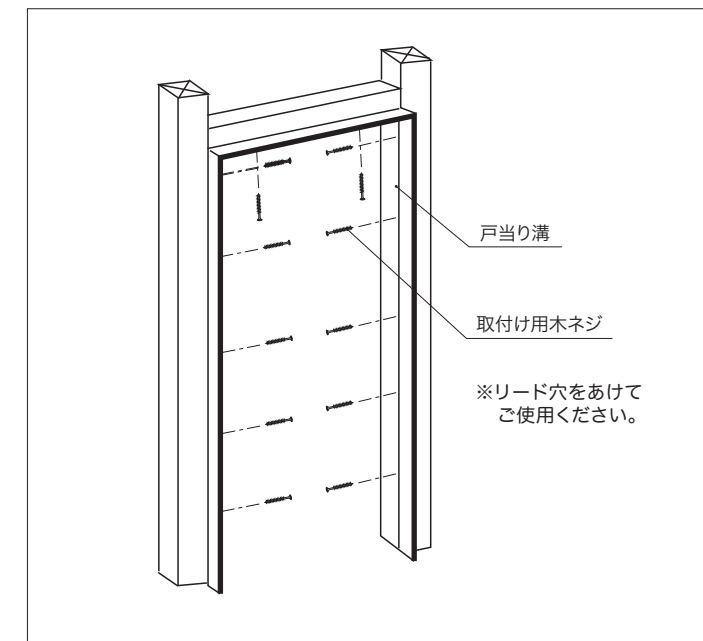
- 下図のように枠組立て用ネジで組立ててください。この時、縦枠と上枠の仕口を下図のように組合せ、下穴に枠組立て用木ネジを入れ、しっかりと固定してください。

※ドア枠すべてに下穴が加工されています。



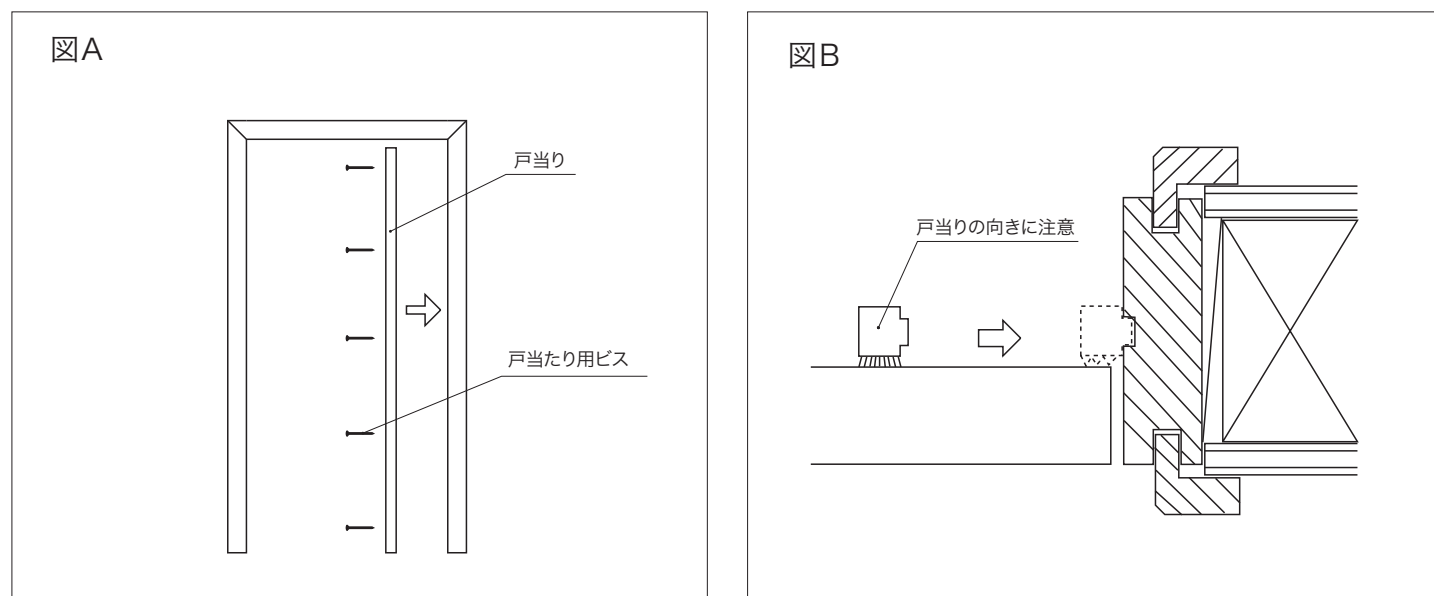
3 枠の取付け

- 枠を壁面のラフ開口部にはめ込み、クサビ等で上下・左右・前後・倒れ等を調整し位置を決めてください。右図のように戸当り溝の間より枠取付け用木ネジにてネジ止めし、躯体にしっかりと固定してください。※木ネジ止め時には、枠に傷をつけないように止めてください。
- ※クサビ等は、左右4個・上2個位を平均に使用して調整を行ってください。木ネジはクサビ等がある場所へネジ止めしてください。
- ※施工後の枠が右下図にならないように水平・垂直および開口寸法の確認をしてください。



4 戸当りの取付け

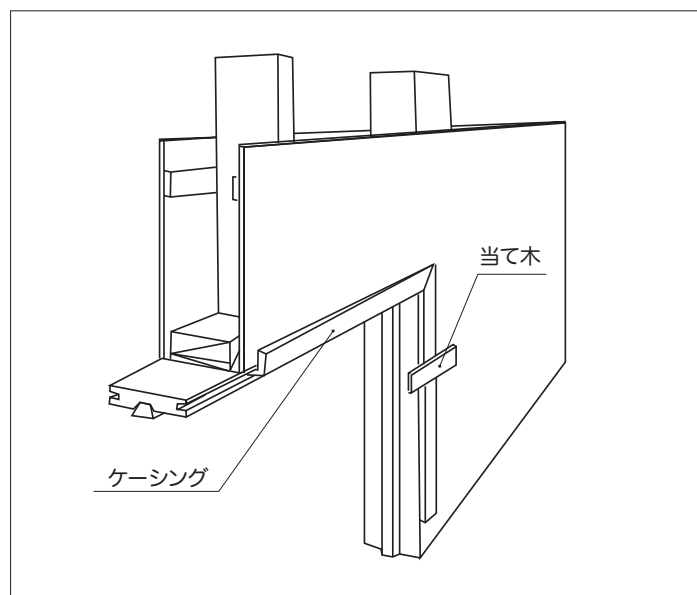
- 枠の戸当り溝に接着剤を塗布してください。
戸当りを溝に図Aのように押込み、戸当り用ビスで固定してください。
- ※ 戸当りを取付ける際、図Bのようにモヘヤのついている面がドア側になるように取付けてください。



※ビス止めにて行う場合は、リード穴をあけてビス止めしてください。

5 ケーシングの取付け(ケーシング枠の場合のみ)

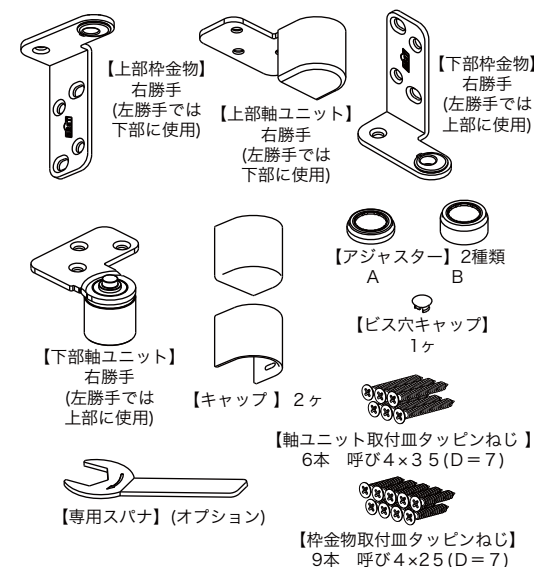
- 枠のケーシング溝へケーシングを差込みます。
- ケーシングを木工用ボンドで枠に固定します。
- ※ ケーシングは接着剤が固まるまで右図のように数箇所「当て木」で押えてください。
- 親子ドアの場合は、フランス落しのツボ受けの加工をしてください。
- 切断加工面等を補修セットでタッチアップし目立たないようにしてください。



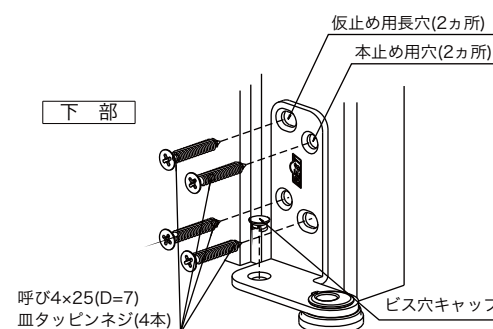
6 丁番の取付け方法

金具の取付け

部品名称



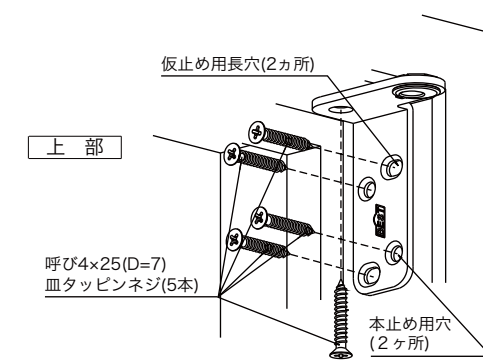
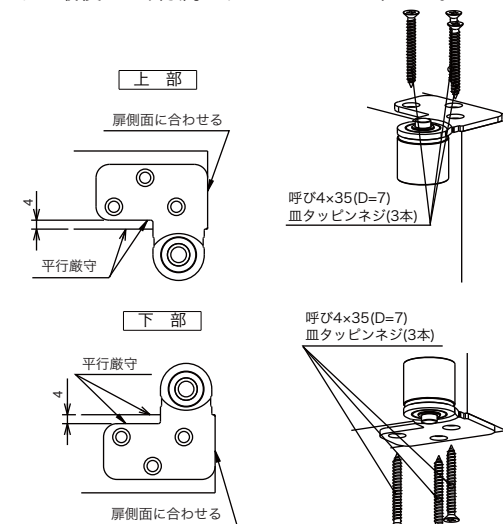
枠本体金具の取付け



上図のように枠金物の下面と床面が平行になる様にし、仮止め用長穴で仮止め位置出し後、本止めます。ビス穴キャップを忘れずにはめて下さい。その際、アジャスターと床面を必ず密着させて下さい。※通常は、アジャスターAを使用してください。(A：扉下端10.5～15.5mm/B：扉下端16～20.5mm)

扉本体金具の取付け

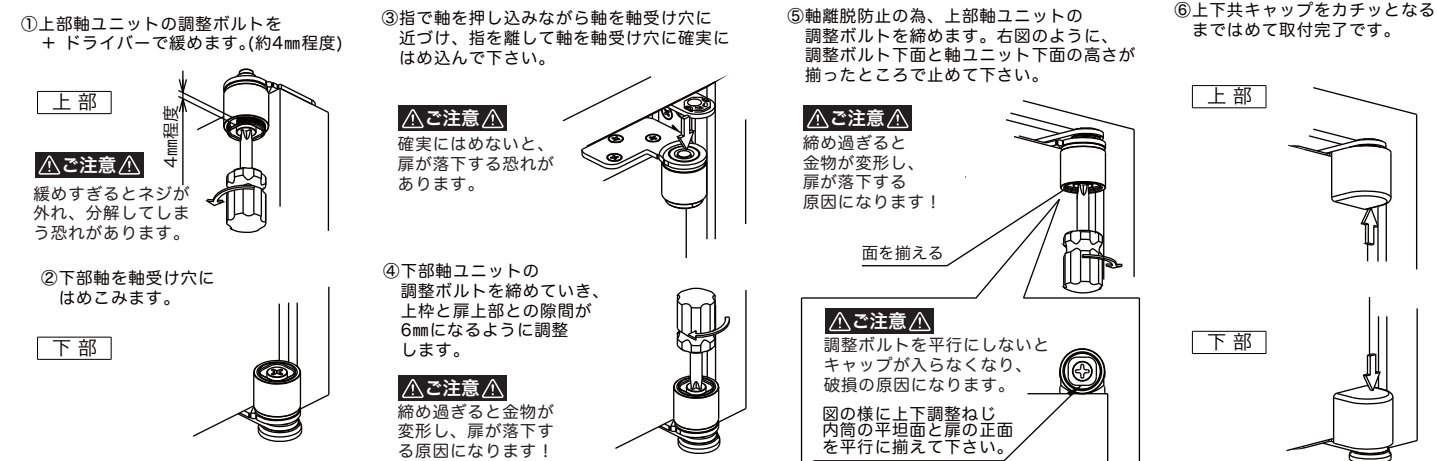
右図を参考に上下軸ユニット共に位置を正確に決め、扉に対してしっかりと最後まで、付属のねじにて止めて下さい。



上図のように枠金物の上面と上枠面が一致する様にし、仮止め用長穴で仮止め位置出し後、本止めます。

金具の取付け

扉の吊り込み



吊り込み確認

調整を必要とする時は『調整方法』に従って下さい。

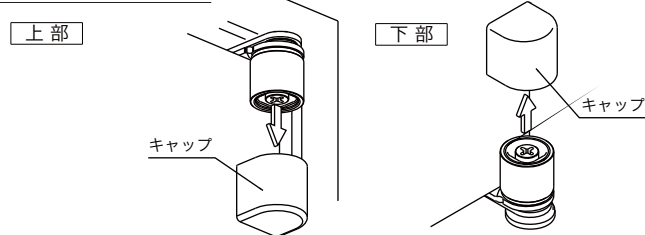
7 丁番の調整方法

調整は扉を外す場合がありますので、安全には充分気をつけてください。

①上下調整は扉を吊ったまま行なう事が出来ます。前後左右の調整は扉を外す必要があります。

②上下のキャップを外します。

※紛失、破損に注意して下さい。



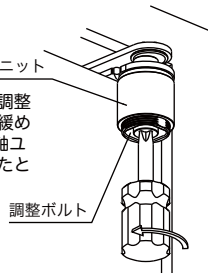
③扉が枠に当たっている箇所を特定します。

扉の上部、または下部が当たっている場合 ⇒④へ

扉の戸先側が枠に当たる
扉の戸先側の隙間が大きい
扉が枠に当たり閉じにくい
錠が掛かりにくい ⇒⑤へ

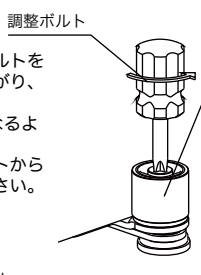
④上下の調整

①まず、上部軸ユニットの調整ボルトを＋ドライバーで緩めます。(左回し)ボルトを軸ユニットから2～3mm出したところで止めます。



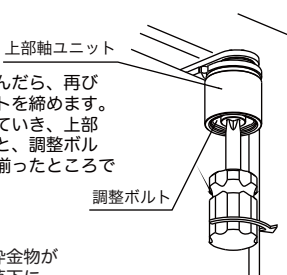
②次に、下部軸ユニットの調整ボルトを＋ドライバーで締めると扉が上がり、緩めると扉が下がります。上枠と扉上部との隙間が6mmになるように調整して下さい。その際、調整ボルトが軸ユニットから飛び出さない範囲で調整して下さい。

△**ご注意**△
緩めすぎるとネジが外れ、分解してしまう恐れがあります。



③高さの調整が済んだら、再び上部の調整ボルトを締めます。ゆっくりと締めていき、上部軸ユニット下面と、調整ボルト下面の高さが揃ったところで止めます。

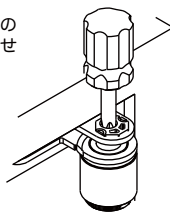
△**ご注意**△
締めすぎると枠金物に変形し、扉の落下につながる恐れがあります。



⑤前後左右の調整

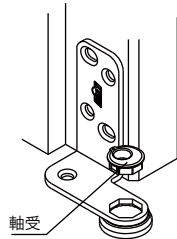
①調整ボルトを4mm程度緩めた状態で、左図のように軸受穴の上から軸を押し込むと扉が外れます。

△**ご注意**△
扉をしっかりと支えておいてください。簡単に扉が外れるため注意してください。



②軸受を取り外して、軸穴位置を扉が当たらない位置にずらして嵌めてください。(上下同じ方法です。)△マークがある方に扉が寄ります。

△**ご注意**△
紛失、破損に注意！



調整が済んだら、『取付方法』の「6.扉の吊り込み」を参照にして扉を取り付けて下さい。

※丁番の調整には電動ドライバーを使用しないでください。

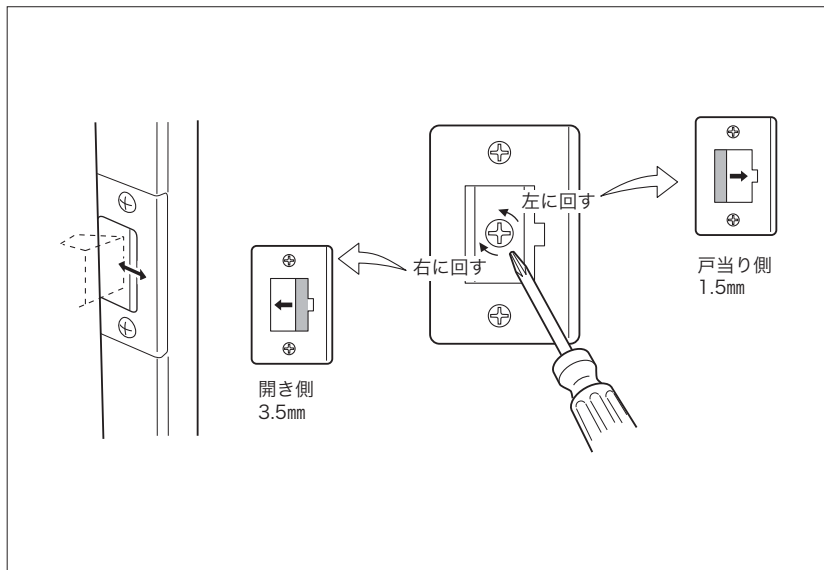
※レバーハンドルの取付けについては、金具箱の中に取付説明書が入っています。

8 ストライクの調整方法

扉の上下調整

ドアのラッチ部分に「ガタツキ」があるときは、ラッチ受け部分の調整ネジを回して調整してください。

※調整には、電動ドライバーを使用しないでください。



施工終了後の確認

施工が完了しましたら、下記の点について確認してください。

◆すべての部品が取付けられているか、また間違った取付けがされていないか確認してください。

◆取付けネジが所定の位置に取付けられているか確認してください。

◆ネジの緩みや枠のガタツキがないか確認してください。

◆ドア本体の開閉がスムーズに行えるか、施工上の不具合がないか再度確認してください。

※枠・扉各々の取付けが完了しましたら、当て傷・擦り傷等がつかないように保護紙等で枠・扉の養生を行ってください。扉には梱包の養生マットをご使用ください。

養生の際には、比較的粘着力の弱い紙製のマスキングテープ等で止めてください。

△**ご注意**△ ポリエチレン繊維等の養生テープは、粘着力が強いため使用しないでください。

※ダンボールはリサイクル品です。地球環境保護のため、回収業者に引取っていただくようご協力をお願いいたします。

※縦枠上部の小口に無塗装部分が見える場合は、補修セットでタッチアップして処理してください。

＜お手入れ方法＞

●お手入れは、うすめた中性洗剤で汚れを落とし、乾いたやわらかい布で軽く拭いてください。

●シンナー等の溶剤や強い洗剤を使用しないでください。使用しますと変色・変質しますので絶対に使用しないでください。

●ペンキ・グリース・油・パテ等が付着した場合は、速やかに拭取ってください。